

# 町民懇談会（令和元年度 7 月）

- 開催日時：令和元年 7 月 9 日（火）午前 10 時
- 開催場所：やはばーく 3 階大研修室
- 参加人数：37 名（ゲストスピーカー、傍聴者、事務局を含む）

## ゲストスピーカー

おお さわ よう こ  
大 澤 曜 子 さん

さ さ き ふ み こ  
佐々木 芙美子 さん

かん の おさむ  
菅 野 治 さん

はたけ やま  
畠 山 ふみよ さん

もと みや ゆう じ  
本 宮 祐 司 さん

## 【町長あいさつ】

今回は「次代を拓き次代につながるひとづくり」というテーマで 5 人のゲストスピーカーからご意見やご提言をいただきます。

## 【自己紹介】

5 人が自己紹介

## 【意見交換（各自の発言要旨）】

大澤さん：

- 私は弦楽教室の第 1 期生である。
- ふるさと創生 1 億円事業の一環だったと思うが、町でバイオリン、チェロ、ヴィオラを準備していただいた。
- 市民オーケストラを勉強するために何人かが長崎に行きノウハウを学んできて、矢巾町でも町民オーケストラを目指すことになったと聞いている。
- 将来的に町民オーケストラをつくろうということで当時青写真があったと思うが、今どのくらいズレが生じているのか知りたい。
- 年に 1 回、6 月に定期演奏会を開催している。
- 田園室内合奏団結成 10 周年記念演奏会は矢巾町に主催していただいた。
- 矢巾町教育委員会と矢巾町芸術文化振興基金で主催いただき、5 年計画で「メサイヤ」を仕上げているという企画をしていただいた。
- フィルハーモニーオーケストラを管弦楽というかたちで 2015 年まで 12 回行わ

させていただいた。

- 2017年に田園ホールの自主運営という枠から外れて3年間、単独で企画運営してきた。やはりクラシックはお客様が少ないという感想である。
- ここ何年か町でバイオリン教室を開催していただいたので参加者が増えた。
- 参加者が増えたおかげで自分たちの参加費で弦楽合奏に係る収支はトントンである。
- 2022年に結成30周年を迎える。できればオーケストラ編成で記念演奏会を開催したいと考えている。結成10周年記念演奏会のように、矢巾町、矢巾町教育委員会が主催に加わっていただき、併せて運営費用の面もご協力頂くことを希望する。今後の節目の演奏会にも同様をお願いしたい。
- 昨年、定期演奏会に子どもたちにも出演いただいている。昨年は田園室内合奏団が指導を受けている先生が主宰している県内の子どもたち、今年は、バイオリン奏者として矢巾東小学校の児童に出演いただいた。町内のみなさんに、楽器を演奏している子どもたちを知ってほしいという思いであったが、結果として出演した子どもたちや親御さんや先生方がとても感激していた。今後もこのような場を提供できるよう練習に励みたい。
- 弦楽器は幼少のころから学んでいて当たり前である。私たちは大人になってから弦楽器に触れたが、これからも生涯学習として演奏をしていきたい。
- 弦楽器は指導してくれる先生がいないと成り立たないのが現状である。
- 矢巾町近隣在住で、この先も近隣に住み続けながら演奏してくれる仲間がほしい。

町長：

- 大澤さんについては、町での助成等について考えてほしいということでした。
- 田園室内合奏団の定期演奏会には極力伺っており、その演奏は大変素晴らしいと感じている。
- 2022年の結成30周年記念演奏会の件については、教育長中心に内部で検討させていただいている。前向きに検討させていただきたい。

佐々木さん：

- 私は楽々クラブやはばに所属している。
- クラブハウスがほしいと思う。今の体育館は学生や、競技性のある人たちも使うといった状態である。
- クラブハウスがあれば、私たちのような団塊の世代も自由に入出りでき、会員であれば子どもからお年寄りまでいつでも利用できる。
- 現在、楽々クラブの事務所は体育館に間借りしているが、クラブハウスができれば、楽々クラブのスタッフが時間内常駐し対応していきたいと考えている。
- クラブハウスにはティールームがあって、運動した後に一休みできるものであれば良いと思う。
- 高齢者は体を動かすことにより足腰がしっかりして寝たきりにならない。
- ちょっとしたトレーニングルームやトレーニングマシンがあり、インストラクターがいれば良い。

- 楽々クラブ会員は、現在週1回ほど体育館を利用しており、それ以上運動したい方は各人で様々な施設を申し込んで、有料で利用している。
- 矢巾町はスポーツのまち宣言をした。クラブハウスをつくるにはとても良いタイミングである。

町長：

- クラブハウス、トレーニングマシン等について、岩手医科大学附属病院とコラボレーションして健康チャレンジの事業の中で佐々木さんがお話ししたようなことを行いたいと考えている。

菅野さん：

- 東京の塾で学生の頃から教えていた。今まで400名ほどの児童生徒に個別で対応してきた。
- 円周率が3.14から3になったあたりから、子どもたちの反応が変わった。
- 聞くところによると、先生は報告書に忙しくて昔のような熱血先生はほとんどいない。むしろ個別に対応することがガイドライン上禁じられているかのような感じがする。
- 政府は教育無償化というが、無料ほど怖いものはない。内容が薄くなるのではないかと心配している。
- 無料ではなくて、もっとお金をかけるべきではないか。なぜなら、武田信玄いわく「人は石垣、人は城」。人がすべてを成り立たせているので、教育が低下すると世の中も低下する。
- AIに仕事を奪われてしまうのではないかという危機感が広がっている。
- 今年2月9日に某放送局で、「AI時代を生き抜く教育」という特番が放送されていた。
- 国立情報学研究所教授の荒井紀子教授が2018年に東洋経済新報社から発刊している「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」を話題にした内容だった。
- 国立情報学研究所ではAIを使って東大に合格させようということで、「東ロボ君」というAIで実験をした。
- 数学と理科はコンピュータ言語とほぼ似通っているので偏差値70を超えた。
- 言葉の意味を読み取り理解して言葉を紡ぐ文系科目は偏差値57で頭打ちだった。
- 偏差値57は受験生の上位2割である。つまり、そこに至っていない8割の受験生がAIよりも言葉の意味を的確に理解していないことが判明した。
- AIが東大を受験して合格するよりも、人間の8割が言葉を理解していないことのほうが重大である。
- 新井教授は先般の本を書いて改善するプロジェクトを始めた。
- 東京都板橋区、埼玉県戸田市、福島県、京都府では、2019年4月からRST（READING SKILL TEST＝読解力技能試験）を価値基準とした読解力を高める教育を試験的に開始している。
- AIにできなくて人間にできることは言葉を正確に理解し、伝える能力である。
- 今の子どもたちは、辞書を引いていない。
- 自分の意見をまとめて簡潔明瞭に伝えることが出来ていない。発信が出来ない。

- 一方向的に先生が授業している内容も児童生徒にきちんと受け取られていない。
- 教科書を読めない人たちが30%いてそのまま学校を卒業する。
- 実験は、ひたすら言葉の定義を勉強する。「受け取るためには発信しなければならない」ということを行っている。
- 昔に比べて子どもたちの覚えが悪くなっている。学校は増えているが、教育内容をもっと充実した方がよい。RSTなどの新しい流れに乗ってほしい。
- ただの暗記ではなく、人間ならではのコミュニケーション力にまで繋がるような教育に取り組むべきである。県外移住者や教育の意識が高い人たちから批判を受けてからの対応だと遅い。
- 矢巾町では、最先端のことをやっていると言えようように医学だけではなく教育も岩手県を主導するようになってほしい。

町長：

- 読解力が不足していることについては、新採用の職員に文章を書かせて感じるころでもある。
- 昔は、読み・書き・そろばんができて一人前と言われた時代だった。
- 偏差値や報道番組のお話をいただいた。我々としても内容について精査させていただき、可能なものはこれからの教育行政に取り組んでいきたい。

畠山さん：

- 体育館が老朽化している。ドーム型施設や室内でレクリエーションができる施設があればスポーツのまち宣言にふさわしい町になるのではないかと思う。
- 自分の子は矢巾北中学校で合唱をしている。煙山小学校や矢巾中学校では吹奏楽が盛んである。
- 町の芸術祭とは別に保育園から高校生まで一堂に会してできる音楽イベントがあれば、お互いの演奏等を観賞することにより刺激になるので良いと思う。
- 野外で音楽フェスできるような屋根がかかっているところがあれば、もっと音楽が盛んになると思う。

町長：

- 保育園から高校生まで一堂に会して音楽イベントを行うことは一つの考え方であると思う。
- ドームについては、スポーツ、災害に使えるドームを考えている。わかりやすく言えば、盛岡市三本柳にあるふれあいランドを大きくしたイメージしていただければ良い。
- 今、県ではスポーツ医科学センターの設立を考えており、岩手医科大学附属病院が開院するので本町が適地である。できれば盛岡広域や県内33市町村で力を合わせてやっていきたい。
- 盛岡広域の広域行政の中にスポーツ医科学センターを取り込んだドーム構想を盛岡

広域としてできないか、県内33市町村に働きかけていきたい。

- 本町には、岩手県消防学校があるし、岩手医科大学の災害時地域医療支援教育センターがあるので、ドームの適地である。
- 今年度から始まる煙山ダム改修の工事と併せて緑豊かな自然の中での野外ステージについて、これからみんなで考えていきたい。

本宮さん：

- 各地区公民館に自分たちの子どもが使わなくなった本を寄付していただいている。
- 各地区公民館に本格的でなくても図書館機能を設けることによって本を寄付していただく人も増えるのではないかと思う。管理は各地区が行うようにすれば良い。
- 市町村単位に一つしかないような施設が、各小中学校に整備されている。休みの日に限り、町が主体となってテニスコート、体育館、プールの貸し出しができるような対応を希望したい。
- 矢巾北中学校には矢巾東小学校からおよそ3クラス分の生徒、煙山小学校から1クラス分、矢巾中学校には、煙山小学校から2クラス分、不動小学校から1クラス分、徳田小学校から1クラス分という配分になっている。
- 少数派の小学校から中学校に入学した生徒は、同級生に馴染むまで時間がかかるといった話を伺っている。
- 毎年9月頃に小学校対抗で陸上記録会が紫波町の運動公園で開催されている。対象は小学校5、6年生である。そこで会った児童たちは結構仲良くなるらしい。水泳記録会もあるようだが、その他に小学校高学年が一同に会って交流する機会が1回でも2回でもあり、そこで友達づくりを企画できれば、中学校入学に向けての人間関係の準備ができるのではないかと思う。

町長：

- 地域の自治公民館をいかにして利活用していくかということ。安定した地域コミュニティの充実を図っていくためには、公民館に古本を置いてそこに人が集まるようなするきっかけにすれば良いと思う。

町長：

- 今回のテーマ以外で、町への提言や意見があれば発言をお願いします。

本宮さん：

- 盛岡西バイパスに取り付けになる道路ができると便利になるが、その道路を通過道路のようにトラックが多く通られると町としては危険であると考えます。便利になってしまいきると、ただ矢巾を通り過ぎるだけの車が増えるのではないかと。環境的な面においても、道路が矢巾町にとって有効に活用されるようなものであれば良い。
- 私の高校や大学の頃と同級生の友達は盛岡市松園や滝沢ニュータウンに住んでいた。双方とも建物があるが人がいないという状況である。矢巾町ではそこまでにはならないと思うが、そうなった場合に対する政策を今の段階から考え始めても良いので

はないかと考える。

- 矢巾3区行政区は、医大が近いためか医大生が多く住んでいる。住民登録をしているのは500世帯だが、住んでいるのは700世帯であり、200世帯の差は医大生などの学生や住所を移していない単身赴任者の数と思われる。行政区内で交流を図ろうと思っても無理である。
- しかし、このままだと災害があった際などは、どうしてよいのかわからず途方に暮れると思う。そのような場合に助け合わなければいけないので、最低限の付き合いができるようであればならない。町と医大や産技短とが協力して、学生が地域と最低限関わらなければならぬルールをつくってほしい。

町長：

- 最後の住民登録について、安定した地域コミュニティの中でも欠かすことができない課題ですので、取り組みをしていきたい。

畠山さん：

- 町営住宅や県営住宅を建設したり、空き家を活用するなどして、もっと住みやすい矢巾町にしてほしい。

町長：

- 県営住宅の建設については、県に要望をしており、前向きに取り組んでいる。いつか公表できる機会がくると思う。
- 空き家対策については、本町にとっても喫緊の課題なので、しっかり対応していかなければならないと考えている。

菅野さん：

- 南昌トンネルができてから南昌台団地付近の西部開拓道を通るトラックの台数が多くなった。
- 毎日塾に行くときに自転車で走っている人を見かける。トラックだけでなく、自転車も走れるようなサイクリングロードも併せて整備すれば良いのではないか。
- 旧パストラルバーデン付近を立ち寄り所にし、矢巾温泉や野外ステージやドーム計画に上手く繋がれば良いと思う。
- 毎週土・日曜日の夜12時ごろに南昌トンネル方面に暴走族が出没する。
- 自然はお金に換えられない。自然も大切にしてほしい。

佐々木さん：

- 孫が矢巾東小学校に通っている。医大附属病院付近の工事を現在盛んに行っている。安全に登校できるようにガードレールのようなものが設置されるのか。
- 自分は団塊の世代であるが、いつ運転免許証を返納しようかと迷っている。想定していないことが起こる年代である。自分で自立して生活できるかということを考える。

- 私の住んでいるところは、日中ほとんど人がいない。一時期に比べれば、子どもが少なくなった。
- コミュニティとしては難しい時代に入ってきている感じがする。

町長：

- 現在、矢巾東小学校の東側の町道中央1号線は交差点にセーフティガードを設置しているので順次拡大していきたい。

大澤さん：

- 高田3区は準工業地帯であると伺っている。三菱ふそうがあったところが空き地になっており、次にどこが来るのか気になっている。東側にはコンビニエンスストアの惣菜をつくって運搬している企業のトラックが四六時中出入りしている。道路が狭く、小学生も通学路として使用していることから危険であるので道路を拡幅してほしい。
- 矢巾東小学校の真上をドクターヘリが飛んでいる。ヘリコプターが落ちないとも限らない。小学校の上を飛ばないようにすることはできないものか。

町長：

- ドクターヘリについて、荒天の時はフライトしないなど運行する条件があるようである。墜落することはないと思うが絶対ではないので、対策について前向きに検討させていただく。

菅野さん：

- 西徳田のトコタウンと医大敷地に挟まれた直線道路を他県ナンバーの医大生と思われる車がすごいスピードで走っていた。マナー改善のために道路をデコボコの段差をつけるとか、直接医大の方に学生の品位に関わることである旨の苦情を言ってほしい。

町長：

- 担当課長を通じて、医大に注意喚起するよう伝える。

(12:00 終了)